

「エルサレム教会の入信の秘跡後の教話」

天のパンと救いの杯^{さかずき}

「わたしたちの主イエス・キリストは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを割き、弟子たちに与えながら言われた。『取って食べなさい。これはわたしの体である。』また、杯^{さかずき}を取り、感謝の祈りをささげて言われた。『取って飲みなさい。これはわたしの血である（コリント一、11.23-25；マタイ 26.26-28 参照）。』パンについてキリストご自身が「わたしの体である」とおおせになったのですから、だれがあえてこのことを疑うことができるでしょうか。また、キリストご自身が「これはわたしの血である」と仰せになったのですから、だれがそれを疑い、キリストの血ではないとすることができるでしょうか。

それで、わたしたちは全^{まった}き、確信をもって、これをキリストの体と血としていただきます。パンの形のもとにあなたに与えられるのは体であり、ぶどう酒の形のもとにあなたに与えられるのは血です。キリストの体と血をいただくことによって、あなたがキリストと共に一つの体、一つの血となるためです。こうして、キリストの体と血がわたしたちの全身に分け与えられることによって、わたしたちはキリストを運ぶ者となります。また、聖ペトロが言うように、わたしたちは神の本性にあずからせていただきます（ペトロ二、1.4 参照）。

かつて、キリストはユダヤ人と話しておられたとき、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲まなければ、あなたがたのうちにいのちはない（ヨハネ 6.53）」と言われました。ユダヤ人たちはこの言葉を霊的に理解できなかつたので、イエスが人の肉を食べるよう促^{うなが}していると考え、つまずきました。

供えのパンは、旧約時代にもありましたが（民数記 4.7 参照）、それは旧約のこととして休止符をうたれました。新約においては、天のパンと救いの杯があります（詩編 116.13 参照）。それらは人の魂と体を聖化するものです。パンが体にふさわしいものであるように、みことばは魂にふさわしいものだからです。

ですから、このパンとブドウ酒を、単なるパンとブドウ酒とみなしてはなりません。主が言われたように、これはキリストの体と血であるからです。感覚によれば単なるパンとブドウ酒のようであっても、信仰が確固たる確かさを与えてくれます。

あなたはこれらのことを教えられ、パンに見え、パンの味がしても、パンではなくキリストの体であり、ブドウ酒の味がしても、ブドウ酒ではなく、キリストの血であることを確信しなさい。昔、ダビデがこの糧について「パンは人の心を支え、油は顔を輝か

せる（詩編 104.15）」と言ったことを信じて、霊的な食物としてこのパンをとり、あなたの心の支えとし、あなたの魂の顔を喜びで輝かしなさい。

清い良心をもって顔の覆いを取り除かれ、鏡のように主の栄光を映し出しながら、わたしたちの主イエス・キリストのうちに、栄光から栄光へと進むことができますように（コリント二、3.18 参照）。栄光と威厳と力は世々に主に。アーメン。

「聖アウグスティヌス司教の説教」

キリストのおける新しい創造

キリストのうちに生れたばかりの幼子たち、教会の新しい子どもたち、御父からの恵み、母である教会の生む力の現れ、信心の芽生え、^{みつばち}蜜蜂の新しい集団、わたしたちの^{ほまれ}誉の花であり労働の実り、わたしたちの喜びであり冠であり、主のうちに立つ皆さん（フィリピ 4.1 参照）。

使徒パウロの言葉をもってお話ししましょう。

「主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉のために心を^{わずら}煩わせてはなりません（ローマ 13.14）。」それは、この秘跡によって身につけたイエスのいのちを身にうけるためです。「洗礼をうけてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由な身分もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです（ガラテヤ 3.27-28）。」

これが、秘跡の力であり、この秘跡は新しいいのちの秘跡です。過去の罪の赦しによって今始まるこの新しいいのちは、死者の復活のうちに完成されます。「あなたたちは洗礼によってキリストとともに葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが死者の中から復活させられたように、あなたたちも新しいいのちに生きるためなのです（ローマ 6.4）。」

いつかは死ぬこの体にあって、主から離れた旅を続ける間（コリント二、5.6 参照）、あなたたちは信仰によって歩んでいます。しかし、わたしたちのために人となれたキリスト・イエス、わたしたちが目指しているイエス自身、人となり、あなたたちのために確実な道となられたのです（ヨハネ 14.6 参照）。この主は、ご自分を畏れ敬うすべての人のために多くの幸福を備えてくださり、主に希望を置く人々のために幸福の扉を開き、〔この道を〕完成されようとし

ています。今は、希望のうちに受けているものを、現実を受け取ることとなります。

今日は皆さんの新しい誕生の八日目です。旧約の人々は、新生児誕生の八日目に肉の割礼を行っていました。これによってあらかじめかたどられたていた信仰のしるしは、今、完成されたのです。主は復活させられることによって、肉体の死を脱ぎ捨て、ほかの体ではなく、しかも、もはや死ぬことのない体とされたのです。そして、主の日をご自分の復活をもって聖別なされたのです。この日は受難の三日目であり、安息日に続く八日目であり、週の初めの日でもあります。

こうして皆さんは、主の復活にあずかる秘跡を受け、聖霊の保証を手付金のように与えられたのですから、今はまだ実現していなくても希望のうちに確かにキリストと共に復活させられたのです。だから、「上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にある者に心をは馳せ、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのです。あなたがたのいのちであるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう（コロサイ 3.1-4）。」

「古代の著者による復活祭の説教」

霊的な過越

わたしたちが祝う過越は、最初の間人をはじめとしてすべての人の救いの源みなもとです。この最初の間人はすべての人において救われ、生かされます。

完全に永遠なもののかたりであり、かたどりである一時的なものは、過ぎ去った時代のために計画されたのでした。それに、後に起こることを前もっておぼろげに示すためでした。それが今や現実となったのですから、かたどりは場所を譲るべきです。王が到来されたとき、その王をさしおいて王の像の前にひれ伏すほうがよいと思う人は一人もいないのと同じです。

かたどりがどれほど現実に劣っているかということは、次のことから明かです。かたどりである過越祭においては、ユダヤ人に長子たちのはかない命が救われたことを祝いました。しかし、今、実現したこの過越祭においては、すべての人の永遠のいのちが祝われるのです。

やがて死ぬことになっている人が、しばらくの間死を逃れたとしてもたいし

たことではありません。しかし、死を完全に^{まぬが}免れると言うことは素晴らしいことです。わたしたちの身に起こるのは、まさにこのことなのです。キリストはこのために過越の小羊としてほふられたのです（コリント一、5.7 参照）。

この祭日の名称を出来事にしたがって解明すると、そのはるかに優れている意味が明らかになります。「過越（パスカ）」とは「通過」という意味です。それは、長子たちを滅ぼした天使が、ヘブライ人たちの家を通り過ぎて行ったということを表します。わたしたちの場合は、滅ぼす者がまさに通り過ぎるのです。滅ぼす者が、キリストによって永遠のいのちへと復活させられたわたしたちを、傷つけることなく通り過ぎるからです。

さて、長子が救われた過越の時期が一年の初めと定められたことを（出エジプト 12.2 参照）、そこにはどのような意味があるのでしょうか。それは、わたしたちにとってもやはり、真の過越のいけにえが永遠のいのちの始まりであると言う意味です。

一年の暦は実に代々の象徴です。それは絶えず循環して巡り来り、とどまることを知らないからです。来るべき世の父（イザヤ 9.6 参照）であるキリストは、わたしたちのためにいけにえとしてささげられ、その死と復活にわたしたちをあやからせて、わたしたちの以前の生命を終わらせ、再生の水洗いによって別のいのちの始まりを与えてくださるのです。

ですから、自分のためにキリストが過越の小羊としてほふられたことを知る者は皆、自分のためにキリストがほふられたそのときから、自分にとってのいのちが始まったと考えなければなりません。神の恵みを認め、このいけにえによって〔新しい〕いのちが生まれたことを悟るとき、その人にとってキリストがほふられるのです。

以上のことを知ったのですから、新しいいのちの始まりを受け入れるように努め、もはや古い生き方に戻るようなことがあってはなりません。古い生き方はもはや終わったのです。聖書に言われているとおりです。事実、「罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう（ローマ 6.2).」